

令和7年度京都市交通事業経営評価

—令和6年度事業—



令和7年9月

市民の暮らしとまちを支える市バス・地下鉄

京 都 市 交 通 局

もくじ

1	はじめに.....	1
	交通事業経営評価について.....	1
2	令和7年度交通事業経営評価（令和6年度事業）	4
(1)	令和6年度の状況.....	4
(2)	評価結果一覧	4
(3)	項目別評価結果・取組の実施状況等.....	6
	事業戦略1 安全運行の確保 市バス事業.....	7
	事業戦略1 安全運行の確保 地下鉄事業.....	11
	事業戦略2 より質の高いサービスの提供.....	15
	事業戦略3 利便性・快適性の向上.....	18
	事業戦略4 まちづくりへの貢献.....	24
	経営ビジョン【改訂版】 市バス事業.....	28
	経営ビジョン【改訂版】 地下鉄事業.....	40



1 はじめに

交通事業経営評価について

- 交通局では、将来にわたる安定的な事業運営を目指し、「交通事業経営評価」（以下「経営評価」という。）を実施しています。
- 経営評価は、平成 31 年 3 月に策定した、令和元年度からの 10 年間を計画期間とする「京都市交通局市バス・地下鉄事業経営ビジョン」（以下「経営ビジョン」という。）について、経営指標や個別取組の進捗状況などを評価し、今後の経営の改善に反映していくことを目的としています。
- また、令和 4 年 3 月には、新型コロナウイルス感染症の影響による危機的な経営状況を踏まえ、経営ビジョンの財政面の計画を中心に見直した「京都市交通局市バス・地下鉄事業経営ビジョン【改訂版】」（以下「経営ビジョン【改訂版】」という。）を策定したところです。
- そのため、令和 4 年度からの経営評価では、経営ビジョン及び経営ビジョン【改訂版】、双方の評価を行います。
- 経営評価では、経営ビジョンに掲げる 5 つの事業戦略における「目標・目指す状態」と、経営ビジョン【改訂版】に掲げる「市バス・地下鉄を安定的に維持していくための財政目標」について、単年度目標の達成状況を評価するとともに、それぞれの目標達成のための取組状況についてお示しします。
- なお、「事業戦略 1 安全運行の確保」と経営ビジョン【改訂版】については、市バス・地下鉄各事業で目標が異なるため、それぞれで評価を行います。
- 「事業戦略 5 経営基盤の強化」については、経営ビジョン【改訂版】において、財政目標の見直しを行ったため、そのなかで取組状況をお示しします。

別表1 経営ビジョンに掲げる5つの事業戦略における「目標・目指す状態」

	目標・目指す状態
(事業戦略1) 安全運行の確保 -市バス事業-	▶ 事故の削減目標を継続して達成することを目指します。 ・ 重大事故件数ゼロ ・ 走行10万キロ当たりの有責事故件数について過去最小値を下回ることを継続 ※ 経営評価では、運輸安全マネジメントにおいて毎年設定している数値を単年度目標とし、達成状況を評価します。
(事業戦略1) 安全運行の確保 -地下鉄事業-	▶ 事故の削減目標を継続して達成することを目指します。 ・ 有責による運転事故及び輸送障害ゼロ
(事業戦略2) より質の高いサービスの提供	▶ 「お客様の声」としていただく「礼状」の件数の増加を目指します。 ※ 経営評価では、前年度の件数を上回することを単年度目標とし、達成状況を評価します。
(事業戦略3) 利便性・ 快適性の向上	▶ 「地下鉄・市バスお客様1日80万人」の実現を目指します。 ※ 経営評価では、経営ビジョン【改訂版】の収支計画に掲げたお客様数を単年度目標とし、達成状況を評価します。 ▶ ICカード利用率の向上を目指します。 市バス 令和10年度：50% 地下鉄 令和10年度：80% ※ 経営評価では、前年度の利用率を上回することを単年度目標とし、達成状況を評価します。
(事業戦略4) まちづくりへの貢献	▶ 「地下鉄・市バスお客様1日80万人」の実現を目指します。 ※ 経営評価では、経営ビジョン【改訂版】の収支計画に掲げたお客様数を単年度目標とし、達成状況を評価します。 ▶ CO2排出量の削減を目指します。 ※ 3年スパンの計画期間の実績値確定後に評価します（次回は令和9年度）。
(事業戦略5) 経営基盤の強化	※ すべての目標を経営ビジョン【改訂版】により見直し。

※ 現在、目標として掲げている項目のみを記載。既に目標時期を経過したもの、経営ビジョン【改訂版】により見直しを行った項目は記載していません。



別表2 経営ビジョン【改訂版】に掲げる財政目標（2つの評価項目）

	財政目標
経営ビジョン 【改訂版】 -市バス事業-	▶ 安定経営を図るうえで基本となる経常損益の黒字について、早期に達成すること ▶ 一般会計から任意の財政支援を受けない運営を継続すること ▶ 経営健全化団体となることを回避すること
経営ビジョン 【改訂版】 -地下鉄事業-	▶ 安定経営を図るうえで基本となる経常損益の黒字について、早期に達成すること ▶ 一般会計から任意の財政支援を受けない運営を継続すること ▶ 早期に経営健全化団体から脱却すること ▶ 特別減収対策企業債残高を除く累積資金不足の最大値を 900 億円以下に抑制すること ※ 最終年度に評価

経営評価について

評価結果一覧

事業戦略1
「市バス事業」

事業戦略1
「地下鉄事業」

事業戦略2

事業戦略3

事業戦略4

【改訂版】
「市バス事業」

【改訂版】
「地下鉄事業」

2 令和7年度交通事業経営評価（令和6年度事業）

(1) 令和6年度の状況

- 令和6年度は定期（通勤）や定期外（「地下鉄・バス1日券」やICカード利用等）が増加し、年間を通じたお客様数は前年度を上回りました。
- お客様数は、市バスは34万人で令和5年度比では2.0%の増となりましたが、令和元年度比では▲5.3%の減となりました。また、地下鉄は40万2千人で令和5年度比では4.3%の増となり、令和元年度比でも0.1%の増で過去最高となりました。
- 運賃収入は、お客様数の回復や平均乗車単価の改善の効果もあり、両事業とも前年度及びコロナ禍前の令和元年度を上回りました。これにより担い手確保に向けた処遇改善のための人件費や物価の高騰による支出が増加するなか、両事業とも2年連続で黒字を確保しました。

(2) 評価結果一覧

評価項目	達成／未達成
事業戦略1 安全運行の確保 市バス事業	
重大事故件数ゼロ	達成
有責事故件数について前年度件数を下回る	達成
事業戦略1 安全運行の確保 地下鉄事業	
有責による運転事故ゼロ	達成
有責による輸送障害ゼロ	達成
事業戦略2 より質の高いサービスの提供	
礼状の件数について前年度件数を上回る	達成
事業戦略3 利便性・快適性の向上	
経営ビジョン【改訂版】に掲げたお客様数の達成	達成
ICカード利用率について前年度の利用率を上回る	達成
事業戦略4 まちづくりへの貢献	
経営ビジョン【改訂版】に掲げたお客様数の達成(再掲)	達成



経営ビジョン【改訂版】 市バス事業	
経常損益の黒字化	達成
一般会計からの任意の財政支援を受けない運営	達成
経営健全化団体の回避	達成
経営ビジョン【改訂版】 地下鉄事業	
経常損益の黒字化	達成
一般会計からの任意の財政支援を受けない運営	達成
経営健全化団体の回避	達成

経営評価について

評価結果一覧

事業戦略1
市バス事業

事業戦略1
地下鉄事業

事業戦略2

事業戦略3

事業戦略4

【改訂版】
市バス事業

【改訂版】
地下鉄事業

(3) 項目別評価結果・取組の実施状況等

評価内容等の見方

経営ビジョンに掲げる「目標・目指す状態」

又は

経営ビジョン【改訂版】に掲げる財政目標

.....

.....

経営ビジョンに掲げる
「目標・目指す状態」
又は
経営ビジョン【改訂版】
に掲げる財政目標

経営ビジョン、経営ビジョ
ン【改訂版】での記載内容
を示しています。

目標の達成状況

目標項目	単年度目標	令和3年度 実績	達成／未達成
□□□□	□□□□	□□□□	達成
□□□□	□□□□	□□□□	未達成

目標の達成状況

目標の評価項目、到達目標
及び実績並びに達成・未達成
の状況を示しています。

目標の未達成項目

□□□□

.....

.....

.....

目標の未達成項目

「未達成」とした目標に
ついて、その理由を示し
ています。

取組の実施状況等

取組1 ▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲

○○○○○○○○○○○○○○○○○○

.....

.....

○○○○○○○○○○○○○○○○○○

.....

.....

取組の実施状況等

経営ビジョンに掲げた主な
取組内容、経営ビジョ
ン【改訂版】に掲げた経営健
全化策について、実施状況
等を示しています。



事業戦略 1 安全運行の確保 | 市バス事業

経営ビジョンに掲げる「目標・目指す状態」

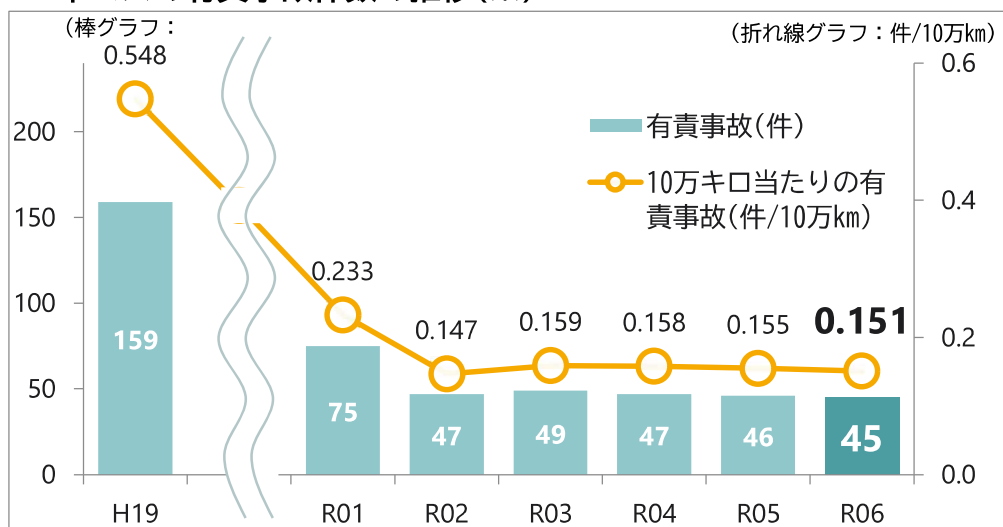
- ▶ 事故の削減目標を継続して達成することを目指します。
 - ・ 重大事故件数ゼロ
 - ・ 走行 10 万キロ当たりの有責事故件数について過去最小値を下回ることを継続
- ※ 経営評価では、運輸安全マネジメントにおいて毎年設定している数値を単年度目標とし、達成状況を評価します。

目標の達成状況

目標項目	単年度目標	令和 6 年度 実績	達成／未達成
重大事故件数	0 件	0 件	達成
有責事故件数 (走行距離 10 万キロ当たり)	0.155 件(※) を下回る	0.151 件	達成

※ 道路運送法に基づく運輸安全マネジメントにおいて毎年設定している目標数値
令和 6 年度については、令和 5 年度の実績（0.155 件）を目標に設定しました。

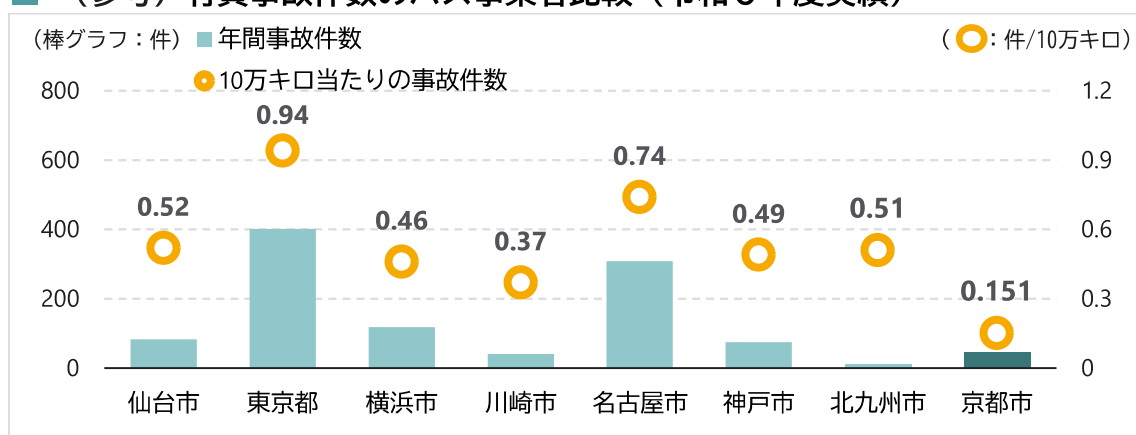
市バスの有責事故件数の推移(※)



	H19	R01	R02	R03	R04	R05	R06
事故件数	159	75	47	49	47	46	45
直営	81	51	32	33	30	33	40
委託	78	24	15	16	17	13	5
10万キロ当たりの事故件数	0.548	0.233	0.147	0.159	0.158	0.155	0.151

※ 運輸安全マネジメントを本格的に開始した平成19年度及び直近6年間の有責事故件数の推移をお示ししています。

(参考) 有責事故件数のバス事業者比較(令和6年度実績)



	仙台市	東京都	横浜市	川崎市	名古屋市	神戸市	北九州市	京都市
年間事故件数	83	401	118	40	308	74	12	45
10万キロ当たりの事故件数	0.52	0.94	0.46	0.37	0.74	0.49	0.51	0.151

※ 東京都、政令指定都市で公営バス事業を行う都市についてお示ししています。



取組の実施状況等

取組 1 安全管理の継続的改善

運輸安全マネジメント制度に基づく取組推進

- 内部監査の実施及び必要な是正又は予防措置の実施
本局の市バス経営管理部門及び現業実施部門 1 営業所に対して内部監査を実施
経営管理部門（8/5）
現業実施部門（烏丸営業所・梅津 JR 営業所(9/2)）
- 事故防止対策検討ワーキングの実施
直営営業所にて自動車事故やヒヤリ・ハット(ファインプレー)映像を視聴し、意見交換を実施(月 1 回)
- 安全意識向上ミーティングの実施
本局の幹部職員と直営営業所の補職者による意見交換の実施（各営業所：年 1 回）
テーマ「発生事故件数について」：九条 3/5、西賀茂 3/6、梅津 3/7、烏丸 3/25
- バス停留所の安全性確保に向けた取組
安全対策が必要なバス停留所 93 か所のうち 41 か所については、安全性確保の優先度の高い A ランクの解消を含め、安全な場所への移設を完了し、52 か所については、バス停付近の電柱等への啓発を掲出、バス車内放送及び車内モニターによる啓発を実施

教育・訓練の継続的な実施

- 市バス運転士に対する経験年数や習熟度に応じたきめ細かな研修の実施（計 118 回、446 人）
新規採用運転士研修(3 回、61 人)、1 年目運転士研修(7 回、43 人)、2 年目運転士研修（0 回 ※対象者なし）、3 年目運転士研修（5 回、17 人）、4 年目以降運転士研修（60 回、220 人）、
コーチング研修（2 回、16 人）、シニアドライバー研修（4 回、12 人）、
経験の浅い運転士を対象とした添乗指導(31 回、31 人)、事故惹起者研修（3 回、24 人）、
接遇パワーアップ研修（2 回、7 人）、新任指導運転士研修（1 回、15 人）

乗務員の健康管理の徹底

- 点呼時における健康状態の確認を実施
- 年 2 回の定期健康診断の実施

有責事故削減に向けた教育訓練の徹底

- 全運転士を対象に外部機関の自動車事故対策機構（NASVA）による事故防止重点研修を実施（30 回、746 人）
- 安全運転訓練車を活用した事故防止研修の継続実施（122 人）

取組２ 安全輸送を支える環境整備

車両・設備の保守点検の徹底、計画的な更新

- ・ バス車両に対する点検、整備の実施
法令で定められた車検及び３か月毎の点検に加え、自主的に１．５か月毎（車齢１０年を超える場合は１か月毎）の点検を実施
- ・ 運行管理システムの計画的更新（バス運行総合システムの更新）
- ・ ドライブレコーダーを活用した安全運行の推進

取組３ 災害対策の強化

関係機関と連携した訓練の実施

- ・ 警察や消防等との災害訓練の実施
地震訓練…京都市総合防災訓練の実施（１１／９）
テロ対策訓練…西京警察署との合同訓練（９／３）、京都府警察本部における合同訓練への参加（３／１３）

市バスの運休等に係る情報提供の強化

- ・ ホームページや X（旧 Twitter）を活用した市バスの情報発信
台風や大雪による交通障害、祭礼等の開催に係る経路変更などを案内

取組４ 安全・安心な御利用のための啓発活動の実施

障害者団体の皆様との意見交換会の実施

- ・ 公益社団法人京都市身体障害者団体連合会及び日本自立生活センター（JCIL）との意見交換会を実施

乗車マナー向上のための啓発活動の実施

- ・ 車内放送及び車内モニターによる啓発を継続実施
- ・ 高齢者に対する転倒防止の啓発を継続実施
運転士の安全確認はもとより、お客様自身も注意していただくため、バス車内に「車内転倒事故防止」啓発ポスターを掲示
- ・ 優先座席を必要とされる方に席をお譲りいただくよう呼び掛ける啓発ポスターを制作、掲示

市バスの走行環境改善に向けた啓発活動の実施

- ・ 中心市街地重点路線クリア作戦の継続実施
市バスの安全運行を確保するため、京都府警や関係機関とともに、市バス停留所周辺を中心に違法駐停車車両に対する指導啓発活動を実施
- ・ バス車内に「自転車の歩道からの飛び出し注意」啓発ポスター及び車内事故防止啓発ポスターを掲示



事業戦略 1 安全運行の確保 | 地下鉄事業

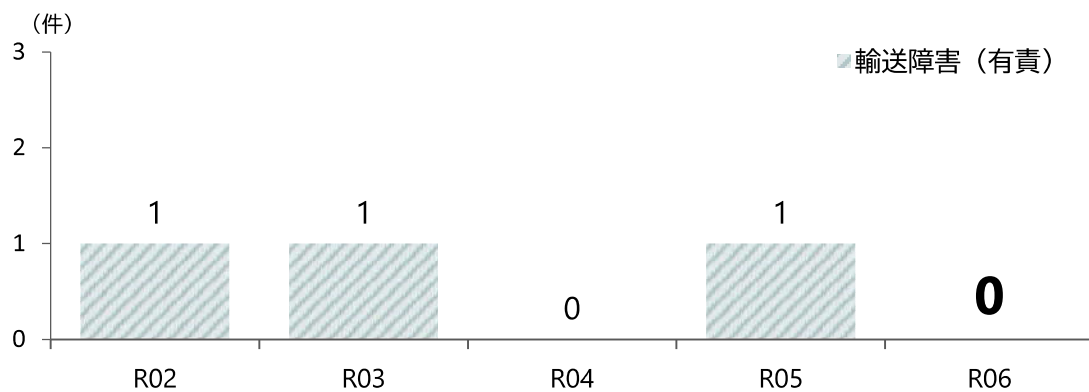
経営ビジョンに掲げる「目標・目指す状態」

- ▶ 事故の削減目標を継続して達成することを目指します。
 - ・ 有責による運転事故及び輸送障害ゼロ

目標の達成状況

目標項目	単年度目標	令和6年度 実績	達成／未達成
有責による運転事故	0 件	0 件	達成
有責による輸送障害	0 件	0 件	達成

■ 地下鉄の有責による輸送障害件数の推移



※ 運転事故（有責）については、開業以来生じていません。

（参考）過去の輸送障害（有責）の概要

- 令和2年度 烏丸線北大路駅における信号装置故障によるダイヤ乱れ
- 令和3年度 東西線御陵駅における連動装置故障によるダイヤ乱れ
- 令和5年度 東西線東山駅における工事が原因による異臭により同駅の営業を一時中止



取組の実施状況等

取組 1 安全管理の継続的改善

運輸安全マネジメント制度に基づく取組推進

- ・ 全職員への安全に関するアンケートの実施及び結果の活用
- ・ 地下鉄に乗り入れている鉄道事業者との意見交換会の実施
- ・ 保守職員の技術継承による若手職員の育成
- ・ 「ヒヤリ・ハット報告強化月間」を設け情報収集の取組を強化

教育・訓練の継続的な実施

- ・ 高速運輸関係職員養成研修の実施（52 人）
助役養成研修（2 回、8 人）
高速運転士養成研修（1 回、6 人）
高速車掌養成研修（2 回、22 人）
駅職員養成研修（2 回、16 人）
- ・ 駅関係職員及び乗務員定期教育訓練の実施
（駅職員 2 回（82 人）、助役 4 回（617 人）、乗務員 5 回（873 人））※人数は累計

乗務員の健康管理の徹底

- ・ 点呼時における健康状態の確認
- ・ 定期健康診断の実施

地下鉄の新型車両導入を見据えた研修の実施

- ・ 乗務員に対する習熟訓練及び車両保守を行う職員に対する技術研修を令和 3 年度に実施済

取組 2 安全輸送を支える環境整備

車両・設備の保守点検の徹底、計画的な更新

- ・ 信号保安設備及び電力設備の計画的更新
- ・ 地下鉄車両及び機器の計画的更新（烏丸線新型車両 2 編成の導入など）

烏丸線における可動式ホーム柵の全駅設置を目指した取組

- ・ 可動式ホーム柵未設置 11 駅における設置スケジュールの策定

烏丸線駅ホームへの車掌用モニター設置

- ・ 令和 3 年度で烏丸線全駅に設置完了

取組３ 災害対策の強化

関係機関と連携した訓練の実施

- ・ 京都駅周辺地域における帰宅困難者対策訓練の実施（行財政局、都市計画局、JR 東海、JR 西日本、近鉄他と合同）
- ・ 安祥寺川止水板設置訓練の実施（京阪電鉄と合同）

地下鉄の浸水対策の強化

- ・ 東山駅の出入口へ止水板を設置、東山変電所へ止水板及び止水扉を設置
- ・ 簡易型止水板を新設（8 駅 15 か所）

取組４ 安全・安心な御利用のための啓発活動の実施

障害者団体の皆様との意見交換会の実施

- ・ 公益社団法人京都市身体障害者団体連合会及び日本自立生活センター（JCIL）との意見交換会を実施

乗車マナー向上のための啓発活動の実施

- ・ ながら操作（スマホ）に対し、ポスター掲示による注意喚起を実施
- ・ 令和 5 年度に全駅 110 か所のエスカレーターに利用マナー向上のサインを設置
- ・ エスカレーターの安全な利用を呼びかける啓発放送とポスターの掲出を実施
- ・ 痴漢・盗撮等の防止策の実施（鉄道警察隊や各警察署と共同で行う啓発活動等）
- ・ ベビーカー使用者及び周囲の方とのお互いの理解を求めるポスターの掲出を実施
- ・ 座席の座り方に関する啓発ポスターの掲出を実施
（関西の鉄道各社との共同キャンペーン）

視覚障害者団体の皆様と連携した安全啓発活動の実施

地下鉄を御利用される方に対して目の不自由な方への積極的なお声掛けや点字ブロックを塞がないようお願いする啓発活動の実施



事業戦略2 より質の高いサービスの提供

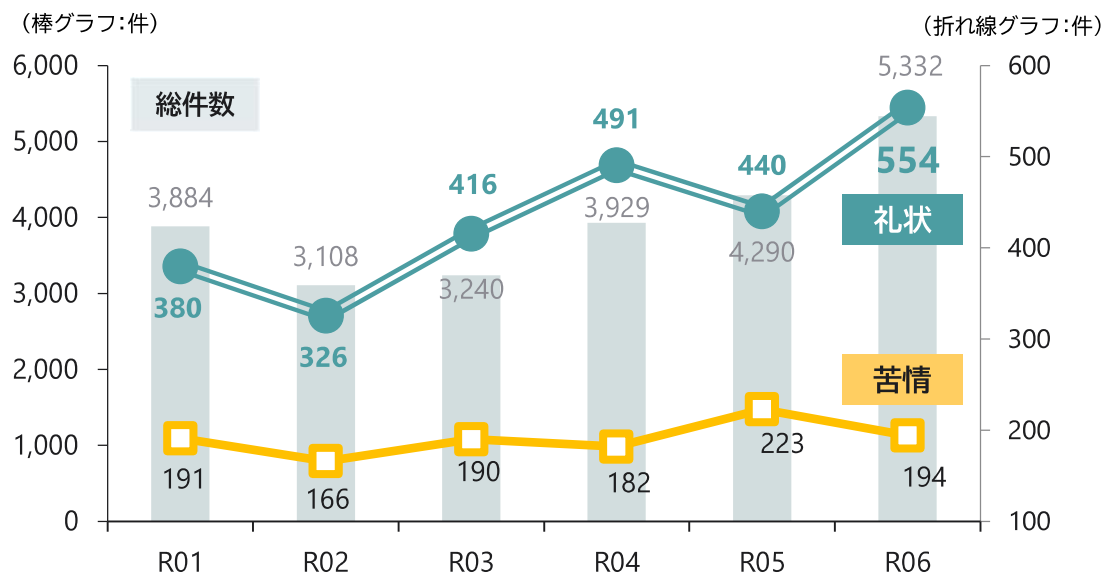
経営ビジョンに掲げる「目標・目指す状態」

- ▶ 「お客様の声」としていただく「礼状」の件数の増加を目指します。
- ※ 経営評価では、前年度の件数を上回ることを単年度目標とし、達成状況を評価します。

目標の達成状況

項目	単年度目標	令和6年度実績	達成／未達成
礼状の件数	前年度実績（440件）を上回る	554件	達成

■ お客様の声として頂く「礼状」と「苦情」の件数



《お客様から寄せられた礼状の例》

- ・路面状況が悪い場所では、事前に「揺れます」とアナウンスされ、降りる方には「自転車が来ていますので気を付けてくださいね」と声掛けをされていました。さらに、バス停でお待ちの方にも市バスの運行状況について丁寧にご案内されていました。運転中でありながらも広い視野で目配りされている様子に加え、伝え方も軽やかで決して押しつけがましくなく、とてもほっこりした気持ちになりました。(市バス)
- ・多くの乗客がいる中でお忙しかったと思いますが、車椅子の方を案内されていた駅員さんが、とても丁寧に対応されており、その対応に感銘を受けました。単に案内するだけでなく、電車を待っている間も車椅子の方に気遣って会話をされており、ホスピタリティにあふれた駅員さんだと思いました。(地下鉄)

《お客様から寄せられた苦情の例》

- ・降車ボタンを押し忘れたことに降車直前で気づき「すみません、降ります」と運転士さんに声をかけましたが、「降りる時は降車ボタンを押してください。」と素っ気なく返され、降ろしていただけませんでした。もう少し寄り添った対応をしていただきたかったです。残念な気持ちになりました。(市バス)
- ・駅に入場する時に改札が反応しなかったところ、駅員に入場か出場かたずねられました。その時にため口でぶっきらぼうに対応されたため、とても不快な気持ちになりました。(地下鉄)



取組の実施状況等

※ **市バス**：市バス事業の取組、**地下鉄**：地下鉄事業の取組、**共通**：両事業共通の取組

取組1 お客様接遇の向上

「交通サポートマネージャー」の養成 **共通**

25人を養成（自動車部門:12人、地下鉄部門:13人）

役付職員の添乗調査等による接遇レベルの向上 **共通**

添乗調査の実施（市バス 7,029 件、地下鉄 2,695 件、合計 9,724 件）

外国語やおもてなしの心を学ぶ研修の実施 **共通**

- ・ 英会話出前講座の実施(14 回、延べ 135 人)
- ・ 文化力向上講座の実施(京菓子づくり体験：20 人)

「京都市バス“おもてなしコンシェルジュ”」による御案内 **共通**

京都市バス“おもてなしコンシェルジュ”による御案内

令和 6 年度は、1,700 時間の活動を実施

取組2 お客様ニーズを踏まえたサービスの向上

「お客様満足度調査」の実施 **共通**

- ※ 経営ビジョン【改訂版】により緊急の対策として見送り
→ 経営ビジョン【改訂版】(P.13)：危機的状況を踏まえた緊急の事業見直し

「お客様の声」などによる御意見を踏まえたサービス改善 **共通**

お客様の御期待や多様化するニーズをしっかりと受け止め、サービス改善の取組を実施

- ※ 令和 6 年度に頂いた「お客様の声」5,332 件すべてを担当部署で情報共有

事業戦略3 利便性・快適性の向上

経営ビジョンに掲げる「目標・目指す状態」

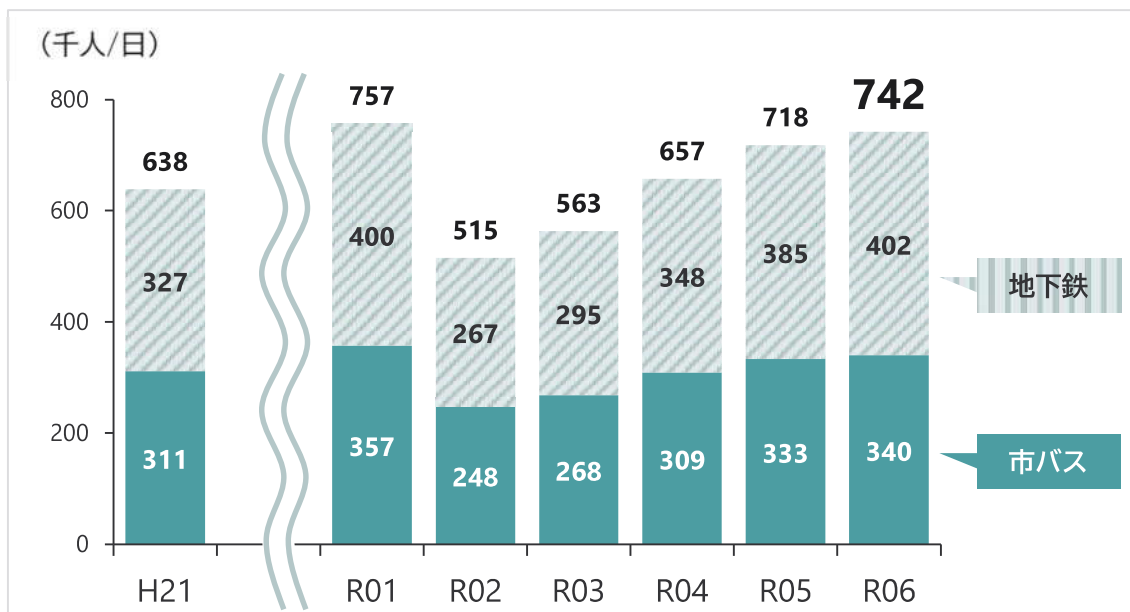
- ▶ 「地下鉄・市バスお客様1日80万人」の実現を目指します。
 ※ 経営評価では、経営ビジョン【改訂版】の収支計画に掲げたお客様数を単年度目標とし、達成状況を評価します。
- ▶ ICカード利用率の向上を目指します。
 市バス 令和10年度：50%
 地下鉄 令和10年度：80%
 ※ 経営評価では、前年度の利用率を上回ることを単年度目標とし、達成状況を評価します。

目標の達成状況

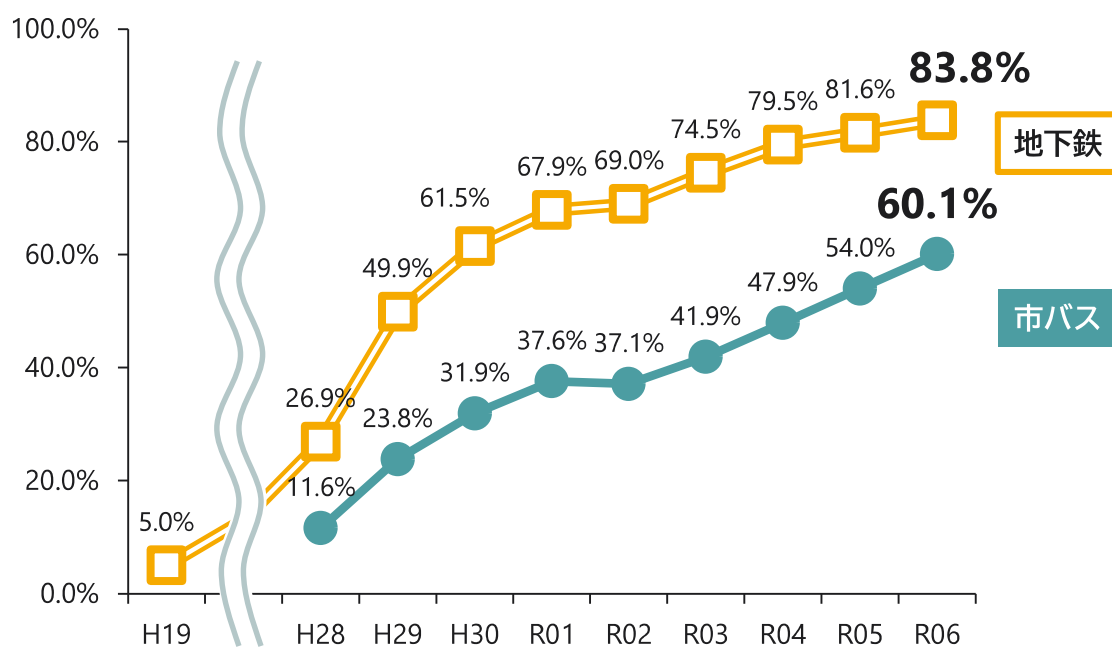
項目	単年度目標	令和6年度 実績	達成／未達成
お客様数	R6 収支計画 617 千人 〔市バス 288 千人〕 〔地下鉄 329 千人〕	R6 実績 742 千人 〔市バス 340 千人〕 〔地下鉄 402 千人〕	達成
ICカード 利用率	(市バス) 前年度実績 (54.0%) を上回る	60.1%	達成
	(地下鉄) 前年度実績 (81.6%) を上回る	83.8%	達成



市バス・地下鉄のお客様数



市バス・地下鉄事業におけるＩＣカードの利用率



経営評価について

評価結果一覧

事業戦略1
市バス事業

事業戦略1
地下鉄事業

事業戦略2

事業戦略3

事業戦略4

【改訂版】
市バス事業

【改訂版】
地下鉄事業

取組の実施状況等

※ **市バス**：市バス事業の取組、**地下鉄**：地下鉄事業の取組、**共通**：両事業共通の取組

取組1 利便性の高い路線・ダイヤ編成

路線・ダイヤの継続的な改善 **市バス**

- ・ 令和6年6月の市バスダイヤ改正では、増車や御利用状況に応じた輸送力の再配分により、市民の皆様の御利用をしっかりと守りつつ、観光利用にも対応した路線・ダイヤ編成に向けて、10年ぶりの大幅な見直しを実施。
- ・ 令和7年3月の市バスダイヤ改正では、運転士不足が深刻な状況にあることから、お客様の御利用状況を踏まえ、減便なども含めた見直しを実施。

市バスの旅客流動調査の実施と路線・ダイヤの在り方の検討 **市バス**

- ・ 「京都市バスの路線・ダイヤの在り方に関する検討委員会」からの答申等を踏まえ、路線・ダイヤの見直しを検討（令和6年6月）

地下鉄のダイヤの充実 **地下鉄**

- ・ 令和7年2月の地下鉄ダイヤ改正では、新型コロナウイルスの拡大による減便分（11時台から14時台での烏丸線・東西線それぞれ計4往復）をお客様数の増加（回復）に伴い増便（復便）し、加えて、烏丸線の平日朝ラッシュ時に1往復の増便を実施。

取組2 分かりやすさの向上

インターネットを活用した情報発信の充実 **共通**

4か国語に対応したスマートフォン・タブレット用ホームページ「京都市バス・地下鉄ガイド」の継続運営

案内表示やマップ等の分かりやすさの向上 **共通**

- ・ 「地下鉄・バス1日券」ホームページ（4か国語対応）において、一日券の使い方や発売場所を掲載するとともに、優待施設の情報について写真や地図を盛り込む等分かりやすく周知
- ・ 「京都市バス・地下鉄路線図」「地下鉄・バスなび」において、色や線種等で凡例を表記し、ビジュアルで分かりやすく周知

フルカラーLED式行先表示器の全車への導入 **市バス**

令和5年度に市バス全車両(810両)へのLED式行先表示器(フルカラー(766両)、単色(44両))の導入を完了 ※R5予算編成時に更新計画見直し(単色LED式の更新見送り)

車内中央部への案内モニターの増設 **市バス**

令和元年度実施済

「運行情報等お知らせモニター」の新設 **地下鉄**

- ※ 経営ビジョン【改訂版】により緊急の対策として当面延期
→ 経営ビジョン【改訂版】(P.13)：危機的状況を踏まえた緊急の事業見直し



車内や駅構内の案内表示の充実 **地下鉄**

地下鉄車内や駅構内の案内表示の充実

- ・ 令和5年度に烏丸線各駅の行先案内表示器のリニューアル（ホーム階）及び増設（改札階）（竹田駅改札階を除く。）を完了
- ・ 令和5年度に烏丸御池駅の床面、柱及び壁面に烏丸線～東西線の乗換案内サインを追加設置
- ・ 全乗降口上部に車内案内表示装置（4か国語対応）を搭載した烏丸線新型車両の導入（2編成）

取組3 快適な御利用環境の整備

ラッシュ型車両の導入 **市バス**

- ・ 市バス車両9両に導入（計460両）

大型手荷物に対応したバス車両の導入 **市バス**

- ・ 新型コロナの影響により急行系統を休止したことから未導入

前乗り後降り方式の観光系統への導入 **市バス**

- ※ 経営ビジョン【改訂版】により緊急の対策として当面延期
 - 経営ビジョン【改訂版】(P.13)：危機的状況を踏まえた緊急の事業見直し
- ・ 令和6年6月の市バスダイヤ改正で新設した、一般バスと運賃制度の異なる「観光特急バス」に導入

金閣寺道（南行）停留所における生活系統と観光系統の分離 **市バス**

新型コロナの影響によりお客様が大きく減少したため、令和4年3月のダイヤ改正で急行系統の休止を実施

観光系統の分かりやすさの向上 **市バス**

- ・ 新型コロナの影響によりお客様が大きく減少したため、令和4年3月のダイヤ改正で急行系統の休止を実施
- ・ 「観光特急バス」の運行及び利用促進に向けた各種PRの展開

バス待ち環境の整備 **市バス**

- ・ 上屋4箇所を整備（新設3箇所、更新1箇所）、ベンチ22基を整備（新設8基、更新13基、増設1基）

烏丸線への新型車両の導入 **地下鉄**

- ・ バリアフリー化を進めた烏丸線新型車両の導入（2編成）

駅トイレのリニューアル **地下鉄**

- ・ 温水洗浄便座の設置（京都駅、四条駅 ※バリアフリースイートイレ）

お客様の多い駅の夜間集中清掃をはじめとした駅構内の美化推進

地下鉄

- ・ お客様利用の多い3駅（京都駅、四条駅、烏丸御池駅）について、夜間集中清掃を実施
- ・ トイレ施設全体の抗菌・抗ウイルスコーティングを烏丸線2駅、東西線5駅で実施
（烏丸線：国際会館駅、松ヶ崎駅 東西線：山科駅、東山駅、三条京阪駅、京都市役所前駅、二条駅）

駅施設・設備の計画的改修

地下鉄

- ・ 五条駅コンコース壁面のリニューアル
- ・ 地下鉄のエレベーター（五条駅、松ヶ崎駅）の更新

照明のLED化

地下鉄

- ・ 東西線醍醐駅及び、東野駅、山科駅の照明のLED化
（駅照明LED化率：54.8%（31駅中17駅完了））
- ・ LED車内照明を搭載した烏丸線新型車両の導入（2編成）

取組4 御利用しやすい乗車券制度

ICカードによるポイントサービスの導入

共通

- ・ 市民利用の多いICOCA・PiTaPaを対象としたポイントサービス「もえぽっ」の導入（令和5年4月1日）
- ・ 乗継ポイント（月額3,600円以上の利用者を対象に、バス⇄バスは150円分、バス⇄地下鉄は120円分のポイントを付与）
- ・ 利用額ポイント（月額3,000円以上の利用者を対象に、3,000円以上5,000円未満で1%、5,000円以上8,000円未満で2%、8,000円以上で3%のポイントを付与）
- ・ バスIC24Hチケット（事前に登録した日時の利用について、設定額の700円を超過したバス利用分のポイントを付与）【令和6年3月31日廃止】

IC定期券購入サービスの充実に向けた検討

共通

IC定期券購入サービスの充実に向け、券売機のクレジットカード決済対応や地下鉄通勤定期券（連絡定期券を含む）の継続購入以外への取扱券種の拡大などを検討

一日券のIC化に向けた検討

共通

ICカードによるポイントサービスにおいて、設定額を超えた金額をポイントで付与することによる実質的な一日券サービスの導入

- ・ バスIC24Hチケット（バス1日券相当のサービスとして、設定額の700円を超過したバス利用分についてポイントを付与）【令和5年4月1日利用開始、令和6年3月31日廃止】
- ・ 地下鉄・バスIC24Hチケット（地下鉄・バス1日券相当のサービスとして、設定額の1,100円を超過した地下鉄及びバス利用分についてポイントを付与）【令和5年10月1日利用開始】

市バス均一運賃区間の拡大

市バス

令和3年3月に市バス均一運賃区間を高雄地域に拡大。残る「桂・洛西地域」及び「横大路地域」においても、関係事業者の経営に与える影響が大きく、また、料金値上げになるケースもあることから実現には至っていないが、引き続き均一運賃区間の拡大に向けた検討を行う



取組5 市バス・地下鉄を組み合わせた御利用の促進

「地下鉄・バス1日券」の利用促進 共通

- ・「地下鉄・バス1日券」等のカード乗車券販売機の増設（令和7年3月、4台増設）
- ・各種イベントと連携した各種1日券とイベントチケット等のセット販売企画の実施（京都モダン建築祭、NAKED、ACK、KYOTO GRAPHIE、京都日本酒ドロップキック）
- ・京都スペイン料理祭との連携企画（各種1日券呈示によるノベルティプレゼント）の実施
- ・西陣 CRAFT BEER TOWN とのコラボスタンプラリーの実施
- ・「古都京都の文化財」世界遺産30周年を契機とした周辺路線への誘客キャンペーンの実施
- ・JR東海との連携による、春秋の観光シーズン等における新幹線京都駅構内での「地下鉄・バス1日券」の臨時販売及び地下鉄への利用誘導の促進
- ・訪日外国人向け情報サイトでの多言語記事の掲載
- ・関西国際空港リムジンバス座席ポケットへの「地下鉄・バス1日券」多言語リーフレット配架
- ・国内空港でのPR（リーフレット、ポスター、デジタルサイネージ展開）
- ・航空機内で配布される日本情報誌でのPR
- ・関西国際空港の旅客案内施設での「地下鉄・バス1日券」の販売開始
- ・京都府内外の宿泊施設常設の観光情報誌でのPR
- ・地下鉄丸太町駅・烏丸御池駅・五条駅・京都市役所前駅へのカード乗車券販売機の増設及び全駅への「地下鉄・バス1日券」販促POPの掲出
- ・京都バスと連携した大原三千院及び「地下鉄・バス1日券」PRポスターの掲出

「トラフィカ京カード」による乗継割引の拡充 共通

- ・平成30年度にトラフィカ京カードによる乗継割引の拡充を実施
- ・各種割引乗車券等の抜本的見直しに伴い、トラフィカ京カードは令和3年9月30日に販売終了、令和5年3月31日に利用を停止。乗継割引は、令和5年4月1日からICカードポイントサービスに移行し、割引額を拡充

バス停や地下鉄駅での乗継案内の充実等 共通

観光シーズンに、ゴールデンウィーク・秋の「おもてなしキャンペーン」として、主要観光地の最寄りのバス停や地下鉄駅等において、市バス・地下鉄の御利用案内や観光案内を実施
（ゴールデンウィーク：4/27～4/29 及び 5/3～5/6、秋：11月の土日祝日及び12/1）

観光シーズンの市バスから地下鉄への無料乗継ぎの継続実施 共通

京都駅へ向かわれるお客様を対象にした市バスから地下鉄への無料振替の実施
春：東山・金閣寺・銀閣寺・岡崎公園において市バスから地下鉄への無料振替を実施
秋：東山・金閣寺・岡崎公園において市バスから地下鉄への無料振替を実施

事業戦略4 まちづくりへの貢献

経営ビジョンに掲げる「目標・目指す状態」

- ▶ 「地下鉄・市バスお客様1日80万人」の実現を目指します。
※ 経営評価では、経営ビジョン【改訂版】の収支計画に掲げたお客様数を単年度目標とし、達成状況を評価します。
- ▶ CO2排出量の削減を目指します。
※ 3年スパンの計画期間の実績値確定後に評価します（次回は令和9年度）。

目標の達成状況

項目	単年度目標	令和6年度 実績	達成／未達成
お客様数 (再掲)	R6 収支計画 617 千人 〔市バス 288 千人〕 〔地下鉄 329 千人〕	R6 実績 742 千人 〔市バス 340 千人〕 〔地下鉄 402 千人〕	達成



取組の実施状況等

※ **市バス**：市バス事業の取組、**地下鉄**：地下鉄事業の取組、**共通**：両事業共通の取組

取組1 ひとと公共交通優先の「歩くまち・京都」の推進

民間事業者と連携した公共交通ネットワーク全体での利用促進の取組 **共通**

- ・ JR 西日本、京阪電車、阪急電鉄、京都市観光協会、本市関係部局と連携した「京の冬の旅デジタルスタンプラリー」の実施
- ・ 京都商工会議所等の経済団体や大学への定期券の利用促進 PR の展開
- ・ きょうとエコサマーの実施（保護者 1 人につき、小学生 2 人までの小児運賃が無料）
- ・ 京阪京都交通、阪急バス、ヤサカバスとの連携による、洛西地域内での「MOTTO（もっと）おでかけ割」の実施（保護者 1 人につき、小学生 2 人までの小児運賃が無料）
- ・ ゼスト御池と連携した地下鉄利用を促進するイベント「まちなかハロウィン」の実施
- ・ 京都バスと連携した大原三千院及び「地下鉄・バス 1 日券」PR ポスターの掲出（再掲）
- ・ 各種イベントと連携した各種 1 日券とイベントチケット等のセット販売企画の実施（京都モダン建築祭、NAKED、ACK、KYOTO GRAPHIE、京都日本酒ドロップキック）（再掲）
- ・ 京都スペイン料理祭との連携企画（各種 1 日券呈示によるノベルティプレゼント）の実施（再掲）
- ・ 西陣 CRAFT BEER TOWN とのコラボスタンプラリーの実施（再掲）
- ・ 「金曜ロードショーとジブリ展」と連携したコラボ企画の実施（各種 1 日乗車券提示によるオリジナルポストカードプレゼント）
- ・ 「村上隆もののけ京都」と連携したポストカード型「地下鉄 1 日券」の販売
- ・ 「京都おふろや夜市」と連携した「京都市営地下鉄に乗って、#そうだ町中華に行こう！LINE スタンプラリー」の実施
- ・ 映画「キングダム」とのコラボデジタルスタンプラリーの実施
- ・ リアル謎解きゲーム「今日も京都でなぞ旅日記 2024」の実施
- ・ 「京都サウナ大作戦 2024」と連携した「京都市営地下鉄に乗って、サウナ・サ飯でととのう！LINE スタンプラリー」の実施
- ・ HOTEL SHE, KYOTO、詩人・最果タヒ氏、デザイナー・佐々木俊氏と連携した、地下鉄九条駅における詩の展示「旅のすべてが詩だったら」の実施
- ・ 本市関係部局と連携し、「京都国際マンガ・アニメフェア 2024」を PR するアニメ列車「京まふ号」を運行
- ・ 映画「はたらく細胞」コラボ企画の実施（地下鉄四条駅での広告と連動したノベルティプレゼント）
- ・ 「超ビジュアル！」シリーズとコラボした戦国武将クイズ&スタンプラリーの実施
- ・ プロスポーツチーム（京都サンガ F.C.）と連携した抽選会の実施

地域が主体のモビリティ・マネジメント（MM）活動との連携 市バス

- ・ ニュースレター等の配布（北区柵野学区、伏見区久我・久我の杜・羽束師地域）
- ・ ポケット時刻表の配布（西京区福西学区、西京区松陽学区）
- ・ 市バスを活用した沿線の観光スポットを訪ねるツアーの開催（西京区松陽学区）
- ・ 地域のまつりでの PR（北区柵野学区、西京区松陽学区）

取組 2 環境にやさしい市バス・地下鉄の運営

環境にやさしい公共交通の PR と利用促進 共通

子ども用ガイドブックでの環境定期券制度等の PR

事業者としての CO2 排出削減等の取組 共通

- ・ 市バスのアイドリングストップ及びエコドライブの徹底
- ・ 市バス車両の更新に当たり、更新前車両より燃費の良い車両を導入（9 両）
- ・ 電気バスの令和 7 年度中の運行開始に向けた事業着手
- ・ 地下鉄における照明の LED 化（再掲）
 駅照明 LED 化率：54.8%（31 駅中 17 駅完了）
 トンネル照明 LED 化率：40.7%（4,568 台中 1,860 台）
- ・ 最新の制御装置を用いた効率の良いモーターや LED 車内照明を搭載し、更新前の車両と比較して走行するための消費電力を約 30%削減する烏丸線新型車両の導入（2 編成）

取組 3 本市が推進する施策との連携

文化首都・京都への貢献 共通

- ・ 大学・企業と連携した駅ナカアートプロジェクト等による駅の魅力向上
 ※ 駅ナカアートプロジェクト：芸術系大学を中心とした学生によるアートやデザインで
 京都の地下鉄駅を明るく、活性化する事業
- ・ 「サブウェイ・パフォーマー」の再開イベント「サブウェイ・パフォーマー復活フェス in 醍醐」の開催
- ・ NISHIJIN BUS における西陣織の座席シートカバーリニューアル
- ・ 各種イベントと連携した各種 1 日券とイベントチケット等のセット販売企画の実施（京都モダン建築祭、NAKED、ACK、KYOTO GRAPHIE、京都日本酒ドロップキック）（再掲）
- ・ 「金曜ロードショーとジブリ展」と連携したコラボ企画の実施（各種 1 日券提示によるオリジナルポストカードプレゼント）（再掲）
- ・ 「村上隆もののけ京都」と連携したポストカード型「地下鉄 1 日券」の販売（再掲）
- ・ 「古都京都の文化財」世界遺産 30 周年を契機とした周辺路線への誘客キャンペーンの実施（再掲）
- ・ HOTEL SHE, KYOTO、詩人・最果タヒ氏、デザイナー・佐々木俊氏と連携した、地下鉄九条駅における詩の展示「旅のすべてが詩だったら」の実施（再掲）



- ・ 本市関係部局と連携し、「京都国際マンガ・アニメフェア 2024」を PR するアニメ列車「京まふ号」を運行（再掲）
- ・ 烏丸線新型車両における伝統産業素材・技法の活用

観光施策との連携 共通

- ・ 観光政策監をリーダーとする局横断的な「市民生活と観光の調和推進プロジェクトチーム」の一員として、関係部局と連携しながら観光課題の解決に向けた様々な取組を実施
- ・ 観光地への過度な自動車交通の流入を抑制する効果的な施策として、パーク＆ライドを地下鉄 5 駅（十条駅・六地藏駅・くいな橋駅・西大路御池駅・二条駅）で展開
- ・ 都市計画局及びイオンモール京都桂川と連携した、春秋の観光シーズンにおけるパーク＆ライドの取組（「地下鉄・バス 1 日券」の提示による駐車料金割引サービス）
- ・ 「古都京都の文化財」世界遺産 30 周年を契機とした周辺路線への誘客キャンペーンの実施（再掲）

「大学のまち京都・学生のまち京都」への貢献 共通

- ・ 立命館大学の映像制作の正課授業「社会連携プログラム」授業への参加（市バスへの大型手荷物持ち込み抑制）及び「市バス通学フリー定期券」の PR をテーマに学生が動画を作成）
- ・ 学校法人大覚寺学園嵯峨美術大学及び一般社団法人ツーリストシップと連携した「ツーリストシップニュース」の制作
- ・ 同志社大学広告研究会が製作した「広告の広告」の地下鉄車内への掲出
- ・ 大学・企業と連携した駅ナカアートプロジェクト等による駅の魅力向上（再掲）

「健康長寿のまち・京都」の推進 共通

イベントの見直しにより未実施

取組 4 次世代技術や新たな公共交通についての動向の注視・研究

次世代技術や新たな公共交通についての動向の注視・研究 共通

新モビリティ・ICT 技術等の動向・事例についての情報収集、局内での情報共有を実施

経営評価について

評価結果一覧

事業戦略 1
「市バス事業」

事業戦略 1
「地下鉄事業」

事業戦略 2

事業戦略 3

事業戦略 4

「改訂版」
「市バス事業」

「改訂版」
「地下鉄事業」

経営ビジョン【改訂版】 | 市バス事業

経営ビジョン【改訂版】に掲げる財政目標

- ▶ 安定経営を図るうえで基本となる経常損益の黒字について、早期に達成すること
- ▶ 一般会計から任意の財政支援を受けない運営を継続すること
- ▶ 経営健全化団体となることを回避すること

目標の達成状況

目標	令和6年度 実績	達成／未達成
経常損益の黒字化の早期達成	経常損益 10億円	達成
一般会計からの任意の財政支援を受けない運営を継続	任意の財政支援なし	達成
経営健全化団体を回避	経営健全化団体を回避	達成



取組の実施状況等

経費削減策

バス車両更新費用の抑制

- ・ リース方式でのバス車両の調達による企業債償還負担の軽減
(令和2年度から毎年度2両、令和7年4月時点で累計10両)

業務の見直し等による経費削減の推進

- ・ リース方式でのバス車両の調達による企業債償還負担の軽減(再掲)
- ・ 操車場の運行管理体制の効率化やバス車両の整備体制の見直し等
- ・ 定期券発売所窓口業務の体制見直しによる委託費の軽減
- ・ 廃タイヤなど不用品の売却による処分費用の抑制

人件費の抑制

人員配置の適正化による人件費の抑制

収入増加策

「安全・安心」な運行の確保とお客様サービスの更なる向上

- ・ バス車内放送及び車内モニターによる啓発を実施
- ・ 安全性確保が必要なバス停留所の安全対策(再掲)
安全対策が必要なバス停留所93か所のうち41か所については、安全性確保の優先度の高いAランクの解消を含め、安全な場所への移設を完了し、52か所については、バス停付近の電柱等への啓発幕を掲出

民間事業者等と連携した公共交通の利用促進

- ・ JR西日本、京阪電車、阪急電鉄、京都市観光協会、本市関係部局と連携した「京の冬の旅デジタルスタンプラリー」の実施(再掲)
- ・ 京都商工会議所等の経済団体や大学への定期券の利用促進PRの展開(再掲)
- ・ きょうとエコサマーの実施(保護者1人につき、小学生2人までの小児運賃が無料)(再掲)
- ・ 京阪京都交通、阪急バス、ヤサカバスとの連携による、洛西地域内での「MOTTO(もっと)おでかけ割」の実施(保護者1人につき、小学生2人までの小児運賃が無料)(再掲)
- ・ 京都バスと連携した大原三千院及び「地下鉄・バス1日券」PRポスターの掲出(再掲)
- ・ 各種イベントと連携した各種1日券とイベントチケット等のセット販売企画の実施(京都モダン建築祭、NAKED、ACK、KYOTO GRAPHIE、京都日本酒ドロップキック)(再掲)
- ・ 京都スペイン料理祭との連携企画(各種1日券提示によるノベルティプレゼント)の実施(再掲)
- ・ 西陣 CRAFT BEER TOWN とのコラボスタンプラリーの実施(再掲)
- ・ 「金曜ロードショーとジブリ展」と連携したコラボ企画の実施(各種1日券提示によるオリジナルポストカードプレゼント)(再掲)
- ・ 映画「キングダム」とのコラボデジタルスタンプラリーの実施(再掲)
- ・ リアル謎解きゲーム「今日も京都でなぞ旅日記2024」の実施(再掲)

沿線地域にお住まいの皆様との連携による市バス利用促進の取組

地域主体のモビリティ・マネジメント（MM）活動との連携（再掲）

- ・ ニュースレター等の配布（北区柊野学区、伏見区久我・久我の杜・羽束師地域）
- ・ ポケット時刻表の配布（西京区福西学区、西京区松陽学区）
- ・ 市バスを活用した沿線の観光スポットを訪ねるツアーの開催（西京区松陽学区）
- ・ 地域のまつりでの PR（北区柊野学区、西京区松陽学区）

人と公共交通優先の「歩くまち・京都」の推進

- ・ 各種イベントと連携した各種 1 日券とイベントチケット等のセット販売企画の実施（京都モダン建築祭、NAKED、ACK、KYOTO GRAPHIE、京都日本酒ドロップキック）（再掲）
- ・ 京都スペイン料理祭との連携企画（各種 1 日券呈示によるノベルティプレゼント）の実施（再掲）
- ・ 西陣 CRAFT BEER TOWN とのコラボスタンプラリーの実施（再掲）
- ・ 「古都京都の文化財」世界遺産 30 周年を契機とした周辺路線への誘客キャンペーンの実施（再掲）
- ・ JR 東海との連携による、春秋の観光シーズン等における新幹線京都駅構内での「地下鉄・バス 1 日券」の臨時販売及び地下鉄への利用誘導の促進（再掲）
- ・ 訪日外国人向け情報サイトでの多言語記事の掲載（再掲）
- ・ 関西国際空港リムジンバス座席ポケットへの「地下鉄・バス 1 日券」多言語リーフレット配架（再掲）
- ・ 国内空港での PR（リーフレット、ポスター、デジタルサイネージ展開）（再掲）
- ・ 関空リムジンバスでの PR（座席ポケットへのリーフレット配架）（再掲）
- ・ 京都府内外の宿泊施設常設の観光情報誌での PR（再掲）
- ・ 航空機内で配布される日本情報誌での PR（再掲）
- ・ 関西国際空港の旅客案内施設での「地下鉄・バス 1 日券」の販売開始（再掲）
- ・ 地下鉄丸太町駅・烏丸御池駅・五条駅・京都市役所前駅へのカード乗車券販売機の増設及び全駅への「地下鉄・バス 1 日券」販促 POP の掲出（再掲）
- ・ 京都バスと連携した大原三千院及び「地下鉄・バス 1 日券」PR ポスターの掲出（再掲）

更なる乗車券制度の見直し

- ・ 混雑緩和のため、バス 1 日券を廃止（令和 5 年 9 月 30 日発売終了、令和 6 年 3 月 31 日利用停止）
- ・ あわせて、ポイントサービスにおけるバス IC24H チケットの廃止（令和 6 年 3 月 31 日）と地下鉄・バス IC24H チケットの利用開始（令和 5 年 10 月 1 日）

広告の収入増加

令和 6 年度決算 2.9 億円 ※税込

- ・ 市バス車内ポスター広告について、新規クライアント及び過去 3 年間に広告掲出実績のないクライアントを対象とした広告料金半額キャンペーン「はじめて割引&おかえり割引」を実施
- ・ 広告媒体の魅力発信（広告の広告）



クラウドファンディングなど資金調達のための新たな取組

- ・ 個人版ふるさと納税の「寄付金の使い道」へのエントリー
- ・ 個人版ふるさと納税の返礼品へのエントリー及び拡充（地下鉄・バス1日券、オリジナルグッズの追加）
- ・ EC サイトに加え、各種イベント開催時におけるオリジナルグッズ及び廃品販売の実施

市民の皆様・お客様への情報発信

市バス・地下鉄事業に関する情報発信の強化

職員自らの提案・制作による「まちピンチキャラクター」の漫画を活用した情報発信で取り上げたテーマ（バス運転士の平均年収や市バス営業係数など）に関し、直近の状況をお伝えするため、最新の数値を取りまとめ「見える化ダッシュボード」として掲載

経営評価について

評価結果一覧

事業戦略1
「市バス事業」

事業戦略1
「地下鉄事業」

事業戦略2

事業戦略3

事業戦略4

【改訂版】
「市バス事業」

【改訂版】
「地下鉄事業」

国等への要望

公共交通の維持・確保に向けた国等への支援要望

新型コロナの影響による市バス・地下鉄事業の危機的な状況は、一交通事業者だけで解決できるものではないため、令和2年4月以降、京都市からの発信をはじめ、様々な協議体と連携し、国等に対して公共交通の維持・確保に向けた支援策を求めており、令和6年度においても、昨今の燃料・電力費をはじめ物価や人件費（運行や保守整備に係る委託料）の高騰の影響などから厳しい経営状況にある市バス・地下鉄に対する支援や地下鉄変電所等電気設備への浸水対策事業の国庫補助拡充等、公共交通の維持・確保に向けた支援策を求めました。

こうした積極的な国への要望活動の成果もあり、原則として国土交通大臣から上限運賃の認可を受ける必要があるバス運賃において、届出で設定が可能な運賃に「観光施設に直行・急行する路線バス」の運賃が追加され、令和6年6月に観光特急バスの運行を開始することができました。

一方で、お客様数は、定期（通勤）や定期外の御利用が増加したことでコロナ禍前の水準まで回復しているものの、「市バス運転士不足 非常事態宣言」の発出（令和6年9月）を踏まえた職員の処遇・職場環境の改善や、市民生活と観光の調和に向けた「市民優先価格」の実現など、市バスの一部路線・時間帯で生じている混雑への対策を講じていく必要があります。また、燃料費の高止まり、人件費の高騰に加え、車両・設備の老朽化対策の負担が大きいことなどこの先も厳しい経営状況が続く見通しであり、両事業が市民生活と多様な都市活動を支える役割を果たせるよう、引き続き、支援を求めています。

（国等への主な要望活動実績）

年月	要望先	主体	内容
R6.6月	国	京都市	R7年度国の施策・予算に関する提案・要望
7月	国	公営交通事業協会	R7年度政府施策に関する要望書
7月	国	大都市交通事業管理者会議	R7年度国家予算に関する要望・大都市交通事業に関する要望
8月	国	日本バス協会	R7年度市バス事業に関する要望
11月	国	京都市	R7年度国の施策・予算に関する緊急提案・要望
11月	国	地方公営企業連絡協議会	R7年度地方公営企業に関する要望書
12月	京都府	京都市	府民の利便性に寄与する地下鉄・市バス事業への支援について



運賃改定

運賃改定

経営改善の取組やお客様数の回復に加え、積極的な国への要望活動により実現した国の財政支援措置等の効果により、令和6年度以降、収支均衡を維持できる見通しが立ったため、市バスの均一区間の運賃改定を回避できることとなりました。

バス業界が直面している厳しい状況を考慮しますと、運賃改定の必要性も否定はできませんが、引き続き、あらゆる経営改善に取り組んでいきます。

経営評価について

評価結果一覧

事業戦略1
―市バス事業―

事業戦略1
―地下鉄事業―

事業戦略2

事業戦略3

事業戦略4

〔改訂版〕
―市バス事業―

〔改訂版〕
―地下鉄事業―

取組の実施状況等（※経営ビジョン 事業戦略5 掲載分）

持続可能な財政運営

取組1 運賃収入の増収に向けた取組の推進

お客様数の増に向けた取組の推進

- ※ 経営ビジョン【改訂版】により取組内容を見直し
→ 経営評価(P.29)：民間事業者等と連携した公共交通の利用促進

お客様1人当たり乗車運賃の引き上げ

- 平均乗車単価 R5：177.59円（税込）→R6：181.53円（税込）
- ・ 昼間回数券・トラフィカ京カードの利用を停止（令和5年3月31日）
 - ・ バス1日券の廃止（令和5年9月30日発売終了、令和6年3月31日利用停止）
 - ・ 全国相互利用可能な10種の交通系ICカードによる乗継割引の終了（令和5年3月31日）

取組2 附帯事業収入の増収に向けた取組の推進

広告料収入の確保

- ※ 経営ビジョン【改訂版】により取組内容を見直し
→ 経営評価(P.30)：広告の収入増加

所有資産の有効活用

- 令和6年度決算5.9億円 ※税込
- ・ 事業用地の高度利用収入（烏丸営業所、三哲操車場、梅津営業所）
事業運営を最優先としつつ、資産の有効活用による収入を確保

取組3 コスト削減策の推進

経常的な経費の削減

- ※ 経営ビジョン【改訂版】により取組内容を見直し
→ 経営評価(P.29)：業務の見直し等による経費削減の推進

設備更新費用等の抑制と平準化

- リース方式でのバス車両の調達による企業債償還負担の軽減（再掲）



取組4 施設マネジメント計画に基づく施設等の長寿命化

施設情報のデータ化

令和元年度実施済

建築物の改修計画策定と計画的な保全

- ・ 建築物の改修計画：平成31年3月に施設マネジメント計画として策定済
- ・ 建築物の計画的な保全
洛西営業所営業所棟の外壁並びに整備場の外壁及び屋根改修設計を実施

取組5 財政の安定化のための対策

利益剰余金の活用

累積欠損金が解消していないため、利益剰余金の活用には至っていない。

企業債の償還負担の平準化

リース方式でのバス車両の調達による企業債償還負担の軽減（再掲）
（令和2年度から毎年度2両、令和6年度時点で累計10両）

制度等の継続的な点検・研究

- ※ 経営ビジョン【改訂版】により取組内容を見直し
→ 経営評価(P.32)：公共交通の維持・確保に向けた国等への支援要望

国への要望

- ※ 経営ビジョン【改訂版】により取組内容を見直し
→ 経営評価(P.32)：公共交通の維持・確保に向けた国等への支援要望

取組6 経営情報等の発信強化

経営レポートの作成

- ※ 経営ビジョン【改訂版】により取組内容を見直し
→ 経営評価(P.31)：市バス・地下鉄事業に関する情報発信の強化

効果的な情報発信

- ※ 経営ビジョン【改訂版】により取組内容を見直し
→ 経営評価(P.31)：市バス・地下鉄事業に関する情報発信の強化

経営評価について

評価結果一覧

事業戦略1
市バス事業

事業戦略1
地下鉄事業

事業戦略2

事業戦略3

事業戦略4

【改訂版】
市バス事業

【改訂版】
地下鉄事業

組織力・職員力の向上

取組 1 公営交通を支える担い手の安定的な確保

市バス運転士の確保に向けた取組

事業運営上の必要人員を確保

- ・ 京都府バス協会主催のバス運転手魅力発信イベント「バスええやん！バスどらフェス in 京都」に参加（12/15）
- ・ バス運転手専門合同企業説明会「バスギアエキスポ大阪 2024」に参加（6/22）
- ・ 転職博に参加（8/3、9/28、2/22）
- ・ 市バス運転体験会の実施（8/3、10/19、3/15）
- ・ インターネットによる受験申込の受付や採用試験における筆記（SPI3）試験の導入

市バス運転士の育成

令和 6 年度に課程を修了したバス運転士(61 人)

(R6/3/25 入局：25 人、8/8 入局：17 人、12/26 入局：19 人)

民間バス事業者における担い手確保に関する状況や取組についての情報共有

令和 4 年 3 月のダイヤ改正において、民間バス事業者の輸送力を活用し、市バスの一部路線を共に運行する取組を実施

- ・ 北 3 号系統
平日 81 回のうち、京都バスが同路線を 20 回運行
- ・ 86 号系統
平日 10 回及び土休日 20 回のうち、京都バスが同路線の 2 分の 1 を運行
- ・ 快速立命館号系統（快速 205 号系統）
平日 20 回のうち、西日本ジェイアールバスが同路線を 6 回運行
⇒令和 7 年 3 月のダイヤ改正において、西日本ジェイアールバスの同路線の運行回数を 6 回から 8 回へ見直し

職員採用情報の積極的な発信

令和 6 年度実施の市バス運転士採用試験において、SNS やデジタルサイネージ、大学生向け各種情報提供公式アプリ「「大学のまち京都・学生のまち京都」KY0-DENT」、定住・移住促進ポータルサイト等あらゆる媒体を活用し、積極的な PR を実施

※ デジタルサイネージ：地下鉄の駅構内等に設置したディスプレイ等の映像表示装置にて静止画や動画によるデジタル広告を発信する媒体



取組２ 市バス事業の安定的な運営体制の検討

管理の受委託の在り方について継続的検討

バス運転士の担い手不足が全国的に課題となる中、現在の委託規模を維持するために、委託事業者と緊密に連携しながら、管理の受委託を適切に実施

市バス整備業務の在り方の検討

- ・ 市バスの安全輸送を支えていく体制の確保に向けた整備職員（自動車検査技師）の採用（5人採用）
- ・ 将来に渡り安定した整備体制を維持するために西賀茂営業所を直営化（令和6年4月）

取組３ 職員力の向上

真のワーク・ライフ・バランスの実現に向けた「働き方改革」の実践

- ・ パソコンのログ確認システム及び自動シャットダウンシステム等を活用した労働時間管理の徹底
- ・ 年次休暇の取得促進
- ・ 長時間勤務をした職員への健康管理の徹底（所属長面談、必要に応じた産業医面談を実施）

職員の向上心を引き出す仕組みづくり

職員としてふさわしい教養・知識を身に着けるために、京都・観光文化検定などの資格を取得した職員に対し、受験に係る費用の全額又は一部を負担（制度を活用した資格取得費用負担実績：13件）

人事評価制度の活用

全職員を対象に人事評価を実施し、任用、給与等の人事施策の基礎として活用
評価結果の更なる活用を進めるため、制度改正を実施

取組４ コンプライアンス意識の向上と風通しのよい組織づくり

幹部職員による職場巡視

- ・ 安全意識向上ミーティングの実施（再掲）
本局の幹部職員と直営営業所の補職者による意見交換の実施（各営業所：年1回）
テーマ「発生事故件数について」：九条 3/5、西賀茂 3/6、梅津 3/7、烏丸 3/25

全職員への研修

職場の実情に応じた業務研修及び人権研修の実施
81回実施、1,654人（休職者・病欠者等を除いた全職員）

職員の意欲向上

安全運行や親切・丁寧なお客様接遇、業務に係る優秀な提案等について表彰を実施
9件表彰（管理者賞：1件、優秀賞：5件、入賞：3件）

不祥事根絶に向けた取組状況

令和6年度に、職員が本市地下鉄において無賃乗車を行い、さらに当該事案の報告を受けた上司職員が隠ぺいを図ろうとする事案が発生しました。その後も、この事案について説明・注意喚起を受けていたにもかかわらず、市バス運転士が後輩職員から意図的に運賃を収受しない事案が発生し、また、当該後輩職員もその行為を正すことなく運賃を支払わず降車しました。

これらの事案や交通局特有の組織風土・業務特性について、外部有識者も参画する「交通局無賃乗車・隠ぺい事案 調査・検証チーム」において調査・検証し、組織の綱紀粛正と活性化の両輪で、不祥事の再発防止・根絶及びお客様から信頼される市バス・地下鉄に向けた取組を進めています。

(主な取組内容)

- ・給与明細書や朝礼・点呼等を活用した不祥事事案等の周知・啓発
- ・公益通報制度の再周知
- ・外部講師等による公務員倫理研修の実施（令和6年11月、令和7年1月）
- ・業務リスク点検の実施
- ・交通局の事業特性を踏まえた「職員育成・組織活性化プラン」の策定



【参考】市バス事業：令和6年度における収支計画と決算の比較

単位：億円

		収支計画 (R6)	決算 (R6)	比較 (決算－収支計画)
旅客数（千人／日）		288	340	52
■	経常収入	197	232	35
	営業収益	191	217	26
	うち運送収益	181	207	26
	営業外収益	6	15	9
	経常支出	209	222	13
	営業費用	206	220	14
	営業外費用	3	2	▲1
	経常損益	▲12	10	22
	▲累積欠損金	101	1	▲100
■	資本的収入	26	22	▲4
	資本的支出	42	37	▲5
	うち建設改良費	26	22	▲4
	うち企業債償還金	15	15	0
▲累積資金不足		83	—	—
▲累積資金不足 (解消可能資金不足額控除後)		34	—	—
資金不足比率		17.8%	—	—
企業債残高		148	90	▲58
うち特別減収対策企業債残高		49	9	▲40

注1 収益的収支は税抜き、資本的収支は税込数値です。

注2 億円未満の端数処理により、合計等が一致しない箇所があります。

経営評価について

評価結果一覧

事業戦略1
「市バス事業」

事業戦略1
「地下鉄事業」

事業戦略2

事業戦略3

事業戦略4

【改訂版】
「市バス事業」

【改訂版】
「地下鉄事業」

経営ビジョン【改訂版】 | 地下鉄事業

経営ビジョン【改訂版】に掲げる財政目標

- ▶ 安定経営を図るうえで基本となる経常損益の黒字について、早期に達成すること
- ▶ 一般会計から任意の財政支援を受けない運営を継続すること
- ▶ 早期に経営健全化団体から脱却すること
- ▶ 特別減収対策企業債残高を除く累積資金不足の最大値を 900 億円以下に抑制すること
※ 最終年度に評価

目標の達成状況

項目	令和 6 年度 実績	達成／未達成
経常損益の黒字化の早期達成	経常損益 26 億円	達成
一般会計からの任意の財政支援を受けない運営を継続	任意の財政支援なし	達成
経営健全化団体から脱却	脱却済 (令和 4 年度決算)	達成
特別減収対策企業債残高を除く 累積資金不足の最大値を 900 億円以下に抑制	— (最終年度に評価)	— (最終年度に評価)



取組の実施状況等

経費削減策

駅有人改札業務の見直し

- ・ 令和4年11月：山科駅、三条京阪駅、二条駅
- ・ 令和5年4月：今出川駅（南改札）、竹田駅（南改札）

業務の見直し等による経費削減の推進

- ・ 改集札機の IC 専用化等による保守管理費用等の削減
- ・ 駅舎等照明の LED 化の推進による省エネ対策
設計：小野駅、東山駅、醍醐車庫工事、醍醐事務所
工事：醍醐駅、山科駅、東野駅、御陵駅 ※御陵駅は R6～R7 に実施
- ・ 電力使用量の削減
烏丸線新型車両導入、エスカレーター更新（北大路駅）、エレベーター更新（五条駅、松ヶ崎駅、国際会館駅、鞍馬口駅、東堀川ビル）※国際会館駅、鞍馬口駅は R6～R7 に実施、駅舎（醍醐駅、山科駅、東野駅、御陵駅）及び烏丸線トンネル等の照明の LED 化

人件費の抑制

人員配置の適正化による人件費の抑制

収入増加策

「安全・安心」な運行の確保とお客様サービスの更なる向上

- ・ 車内防犯カメラの設置
烏丸線：新型車両（7 編成）に加え、既存車両（13 編成中）1 編成に設置
東西線：全 17 編成中 1 編成に設置

民間事業者等と連携した公共交通の利用促進

- ・ JR 西日本、京阪電車、阪急電鉄、京都市観光協会、本市関係部局と連携した「京の冬の旅デジタルスタンプラリー」の実施（再掲）
- ・ 京都商工会議所等の経済団体や大学への定期券の利用促進 PR の展開（再掲）
- ・ ゼスト御池と連携した地下鉄利用を促進するイベント「まちなかハロウィン」の実施（再掲）
- ・ 京都バスと連携した大原三千院及び「地下鉄・バス 1 日券」PR ポスターの掲出（再掲）
- ・ 各種イベントと連携した各種 1 日券とイベントチケット等のセット販売企画の実施（京都モダン建築祭、NAKED、ACK、KYOTO GRAPHIE、京都日本酒ドロップキック）（再掲）
- ・ 京都スペイン料理祭との連携企画（各種 1 日券呈示によるノベルティプレゼント）の実施（再掲）
- ・ 西陣 CRAFT BEER TOWN とのコラボスタンプラリーの実施（再掲）
- ・ 「金曜ロードショーとジブリ展」と連携したコラボ企画の実施（各種 1 日乗車券提示によるオリジナルポストカードプレゼント）（再掲）
- ・ 「村上隆もののけ京都」と連携したポストカード型「地下鉄 1 日券」の販売（再掲）

- ・ 「京都おふろや夜市」と連携した「京都市営地下鉄に乗って、#そうだ町中華に行こう！LINE スタンプラリー」の実施（再掲）
- ・ 映画「キングダム」とのコラボデジタルスタンプラリーの実施（再掲）
- ・ リアル謎解きゲーム「今日も京都でなぞ旅日記 2024」の実施（再掲）
- ・ 「京都サウナ大作戦 2024」と連携した「京都市営地下鉄に乗って、サウナ・サ飯でととう！LINE スタンプラリー」の実施（再掲）
- ・ HOTEL SHE, KYOTO、詩人・最果タヒ氏、デザイナー・佐々木俊氏と連携した、地下鉄九条駅における詩の展示「旅のすべてが詩だったら」の実施（再掲）
- ・ 本市関係部局と連携し、「京都国際マンガ・アニメフェア 2024」を PR するアニメ列車「京まふ号」を運行（再掲）
- ・ 映画「はたらく細胞」コラボ企画の実施（地下鉄四条駅での広告と連動したノベルティプレゼント）（再掲）
- ・ 「超ビジュアル！」シリーズとコラボした戦国武将クイズ&スタンプラリーの実施（再掲）
- ・ プロスポーツチーム（京都サンガ F.C.）と連携した抽選会の実施（再掲）

人と公共交通優先の「歩くまち・京都」の推進

- ・ 各種イベントと連携した各種 1 日券とイベントチケット等のセット販売企画の実施（京都モダン建築祭、NAKED、ACK、KYOTO GRAPHIE、京都日本酒ドロップキック）（再掲）
- ・ 京都スペイン料理祭との連携企画（各種 1 日券呈示によるノベルティプレゼント）の実施（再掲）
- ・ 西陣 CRAFT BEER TOWN とのコラボスタンプラリーの実施（再掲）
- ・ 「古都京都の文化財」世界遺産 30 周年を契機とした周辺路線への誘客キャンペーンの実施（再掲）
- ・ J R 東海との連携による、春秋の観光シーズン等における新幹線京都駅構内での「地下鉄・バス 1 日券」の臨時販売及び地下鉄への利用誘導の促進（再掲）
- ・ 訪日外国人向け情報サイトでの多言語記事の掲載（再掲）
- ・ 関西国際空港リムジンバス座席ポケットへの「地下鉄・バス 1 日券」多言語リーフレット配架（再掲）
- ・ 国内空港での PR（リーフレット、ポスター、デジタルサイネージ展開）（再掲）
- ・ 関空リムジンバスでの PR（座席ポケットへのリーフレット配架）（再掲）
- ・ 京都府内外の宿泊施設常設の観光情報誌での PR（再掲）
- ・ 航空機内で配布される日本情報誌での PR（再掲）
- ・ 関西国際空港の旅客案内施設での「地下鉄・バス 1 日券」の販売開始（再掲）
- ・ 地下鉄丸太町駅・烏丸御池駅・五条駅・京都市役所前駅へのカード乗車券販売機の増設及び全駅への「地下鉄・バス 1 日券」販促 POP の掲出（再掲）
- ・ 京都バスと連携した大原三千院及び「地下鉄・バス 1 日券」PR ポスターの掲出（再掲）

更なる乗車券制度の見直し

- ・ 混雑緩和のため、バス 1 日券を廃止（令和 5 年 9 月 30 日発売終了、令和 6 年 3 月 31 日利用停止）（再掲）
- ・ あわせて、ポイントサービスにおけるバス IC24H チケットの廃止（令和 6 年 3 月 31 日）と地下鉄・バス IC24H チケットの利用開始（令和 5 年 10 月 1 日）（再掲）



広告の収入増加

令和 6 年度決算 6.8 億円 ※税込

- ・ 地下鉄車内ポスター広告について、新規クライアント及び過去 3 年間に広告掲出実績のないクライアントを対象とした広告料金半額キャンペーン「はじめて割引&おかえり割引」を実施
- ・ 地下鉄烏丸線四条駅に大型デジタルサイネージの新設（R6.11 設置）
- ・ 広告媒体の魅力発信（広告の広告）

駅ナカビジネスの収入増加

令和 6 年度決算 10.8 億円 ※税込

- ・ コトチカ四条・京都・山科における一部店舗のリニューアル
- ・ 京都駅イベントスペース（コトチカ広場）における販売催事によるワゴン販売の実施
- ・ 食品ロス削減に貢献する自販機をはじめ、多様なニーズに対応した自動販売機を 13 台増設
- ・ 地下鉄醍醐駅における野菜等の販売
- ・ クリスマスにおける非接触型 WEB 抽選会・京都サンガとのコラボ抽選会の実施
- ・ 志津屋とコラボした「コトチカ限定商品」の発売

クラウドファンディングなど資金調達のための新たな取組

- ・ 個人版ふるさと納税の「寄付金の使い道」へのエントリー（再掲）
- ・ 個人版ふるさと納税の返礼品へのエントリー及び拡充（地下鉄・バス 1 日券、オリジナルグッズの追加）（再掲）
- ・ EC サイトに加え、各種イベント開催時におけるオリジナルグッズ及び廃品販売の実施（再掲）

市民の皆様・お客様への情報発信

市バス・地下鉄事業に関する情報発信の強化

職員自らの提案・制作による「まちピンチキャラクター」の漫画を活用した情報発信で取り上げたテーマ（バス運転士の平均年収や市バス営業係数など）に関し、直近の状況をお伝えするため、最新の数値を取りまとめ「見える化ダッシュボード」として掲載（再掲）

国等への要望

公共交通の維持・確保に向けた国等への支援要望

新型コロナの影響による市バス・地下鉄事業の危機的な状況は、一交通事業者だけで解決できるものではないため、令和2年4月以降、京都市からの発信をはじめ、様々な協議体と連携し、国等に対して公共交通の維持・確保に向けた支援策を求めており、令和6年度においても、昨今の燃料・電力費をはじめ物価や人件費（運行や保守整備に係る委託料）の高騰の影響などから厳しい経営状況にある市バス・地下鉄事業に対する支援や公共交通の維持・確保に向けた支援策を求めました。

こうした積極的な国への要望活動の成果もあり、民間鉄道事業者を対象とする「鉄道施設総合安全対策事業費補助」の交付要綱が改正され、電気設備の浸水対策が補助対象事業に加わったことで、同補助に準じる地下鉄事業者を対象とする「地下高速鉄道整備事業費補助」においても変電所等の電気設備が補助対象となり、令和6年度においては同補助を活用し、東山変電所への浸水対策を実施しました。

お客様の御利用数は、定期（通勤）や定期外の御利用が増加したことでコロナ禍前の水準まで回復しているものの、深刻化する担い手不足に対応した処遇改善のための人件費の高騰に加え、車両・設備の老朽化対策の負担が大きいことや、多額の企業債残高を抱えるなどこの先も厳しい経営状況が続く見通しであり、両事業が市民生活と多様な都市活動を支える役割を果たせるよう、引き続き、支援を求めています。

（国等への主な要望活動実績）

年月	要望先	主体	内容
R6.6月	国	京都市	R7年度国の施策・予算に関する提案・要望
7月	国	公営交通事業協会	R7年度政府施策に関する要望書
7月	国	大都市交通事業管理者会議	R7年度国家予算に関する要望・大都市交通事業に関する要望
7月	国	日本地下鉄協会	R7年度地下鉄事業に関する要望
11月	国	京都市	R7年度国の施策・予算に関する緊急提案・要望
11月	国	地方公営企業連絡協議会	R7年度地方公営企業に関する要望書
12月	京都府	京都市	府民の利便性に寄与する地下鉄・市バス事業への支援について



運賃改定

運賃改定

経営改善の取組やお客様数の回復に加え、積極的な国への要望活動により実現した国の財政支援措置の効果により、令和4年度には経営ビジョン【改訂版】の財政目標である累積資金不足の抑制が図れることとなったため、更なる経営努力を重ねることが前提とはなるものの、運賃改定を回避しました。

経営評価について

評価結果一覧

事業戦略1
― 中ハス事業 ―

事業戦略1
― 地下鉄事業 ―

事業戦略2

事業戦略3

事業戦略4

【改訂版】
― 中ハス事業 ―

【改訂版】
― 地下鉄事業 ―

取組の実施状況等（※ 経営ビジョン 事業戦略5 掲載分）

持続可能な財政運営

取組1 運賃収入の増収に向けた取組の推進

お客様数の増に向けた取組の推進

- ※ 経営ビジョン【改訂版】により取組内容を見直し
- 経営評価(P.41～42)：民間事業者等と連携した公共交通の利用促進

取組2 附帯事業収入の増収に向けた取組の推進

広告料収入の確保

- ※ 経営ビジョン【改訂版】により取組内容を見直し
- 経営評価(P.43)：広告の収入増加

所有資産の有効活用

- 令和6年度決算1.8億円 ※税込
- ・ 事業用地の高度利用収入（北大路駅）
- 事業運営を最優先としつつ、資産の有効活用による収入を確保

駅ナカビジネスの推進

- ※ 経営ビジョン【改訂版】により取組内容を見直し
- 経営評価(P.43)：駅ナカビジネスの収入増加

取組3 コスト削減策の推進

経常的な経費の削減

- ※ 経営ビジョン【改訂版】により取組内容を見直し
- 経営評価(P.41)：業務の見直し等による経費削減の推進

設備更新費用等の抑制と平準化

- ※ 経営ビジョン【改訂版】により取組内容を見直し
- 経営評価(P.41)：業務の見直し等による経費削減の推進



取組4 施設マネジメント計画に基づく施設等の長寿命化

施設情報のデータ化

令和元年度実施済（再掲）

建築物の改修計画策定と計画的な保全

- ・ 建築物の改修計画：平成31年3月に施設マネジメント計画として策定済（再掲）
- ・ 建築物の計画的な保全
小野駅、柳辻駅及び御陵駅出入口の外壁及び屋上防水改修を実施

地下構造物の長寿命化

- ・ 施設マネジメント計画に基づく湧水対策計画を策定

取組5 財政の安定化のための対策

制度等の継続的な点検・研究

- ※ 経営ビジョン【改訂版】により取組内容を見直し
→ 経営評価(P.44)：公共交通の維持・確保に向けた国等への支援要望

国への要望

- ※ 経営ビジョン【改訂版】により取組内容を見直し
→ 経営評価(P.44)：公共交通の維持・確保に向けた国等への支援要望

取組6 経営情報等の発信強化

経営レポートの作成

- ※ 経営ビジョン【改訂版】により取組内容を見直し
→ 経営評価(P.43)：市バス・地下鉄事業に関する情報発信の強化

効果的な情報発信

- ※ 経営ビジョン【改訂版】により取組内容を見直し
→ 経営評価(P.43)：市バス・地下鉄事業に関する情報発信の強化

経営評価について

評価結果一覧

事業戦略1
市バス事業

事業戦略1
地下鉄事業

事業戦略2

事業戦略3

事業戦略4

【改訂版】
市バス事業

【改訂版】
地下鉄事業

組織力・職員力の向上

取組１ 公営交通を支える担い手の安定的な確保

職員採用情報の積極的な発信

令和６年度実施の高速鉄道運輸職員採用試験に向けて、SNS やデジタルサイネージ等あらゆる媒体を活用し、積極的な PR を実施

- ※ デジタルサイネージ：地下鉄の駅構内等に設置したディスプレイ等の映像表示装置にて静止画や動画によるデジタル広告を発信する媒体

取組２ 市バス事業の安定的な運営体制の検討

- ※ 地下鉄事業は取組の対象外

取組３ 職員力の向上

真のワーク・ライフ・バランスの実現に向けた「働き方改革」の実践

- ・ パソコンのログ確認システム及び自動シャットダウンシステム等を活用した労働時間管理の徹底（再掲）
- ・ 年次休暇の取得促進（再掲）
- ・ 長時間勤務をした職員への健康管理の徹底（所属長面談、必要に応じた産業医面談を実施）（再掲）

職員の向上心を引き出す仕組みづくり

職員としてふさわしい教養・知識を身に着けるために、京都・観光文化検定などの資格を取得した職員に対し、受験に係る費用の全額又は一部を負担（制度を活用した資格取得費用負担実績：13 件）（再掲）

人事評価制度の活用

全職員を対象に人事評価を実施し、任用、給与等の人事施策の基礎として活用（再掲）
評価結果の更なる活用を進めるため、制度改正を実施（再掲）

取組４ コンプライアンス意識の向上と風通しのよい組織づくり

幹部職員による職場巡視

幹部職員による職場巡視（春・夏・秋・冬、年４回実施）

全職員への研修

職場の実情に応じた業務研修及び人権研修の実施

81 回実施、1,654 人（休職者・病欠者等を除いた全職員）（再掲）



職員の意欲向上

安全運行や親切・丁寧なお客様接遇、業務に係る優秀な提案等について表彰を実施

9 件表彰（管理者賞：1 件、優秀賞：5 件、入賞：3 件）（再掲）

不祥事根絶に向けた取組状況（再掲）

令和 6 年度に、職員が本市地下鉄において無賃乗車を行い、さらに当該事案の報告を受けた上司職員が隠ぺいを図ろうとする事案が発生しました。その後も、この事案について説明・注意喚起を受けていたにもかかわらず、市バス運転士が後輩職員から意図的に運賃を収受しない事案が発生し、また、当該後輩職員もその行為を正すことなく運賃を支払わず降車しました。

これらの事案や交通局特有の組織風土・業務特性について、外部有識者も参画する「交通局無賃乗車・隠ぺい事案 調査・検証チーム」において調査・検証し、組織の綱紀粛正と活性化の両輪で、不祥事の再発防止・根絶及びお客様から信頼される市バス・地下鉄に向けた取組を進めています。

（主な取組内容）

- ・給与明細書や朝礼・点呼等を活用した不祥事事案等の周知・啓発
- ・公益通報制度の再周知
- ・外部講師等による公務員倫理研修の実施（令和 6 年 11 月、令和 7 年 1 月）
- ・業務リスク点検の実施
- ・交通局の事業特性を踏まえた「職員育成・組織活性化プラン」の策定

【参考】地下鉄事業：令和6年度における収支計画と決算の比較

単位：億円

		収支計画 (R6)	決算 (R6)	比較 (決算－収支計画)
旅客数（千人／日）		329	402	73
収	経常収入	308	341	33
	営業収益	256	287	31
	うち運送収益	232	263	31
	営業外収益	52	54	2
	経常支出	318	315	▲3
	営業費用	283	288	5
	営業外費用	34	27	▲7
	現金収支（償却前損益）	108	138	30
	経常損益	▲10	26	36
	▲累積欠損金	3,237	3,076	▲161
収	資本的収入	115	192	77
	資本的支出	316	370	54
	うち建設改良費	96	78	▲18
	うち企業債等償還金	220	292	72
▲累積資金不足		632	438	▲194
▲累積資金不足 （特別減収対策企業債を除く）		454	309	▲145
▲累積資金不足 （解消可能資金不足額控除後）		—	—	—
資金不足比率		—	—	—
企業債等残高		3,212	3,131	▲81
うち特別減収対策企業債残高		179	129	▲50

注1 収益的収支は税抜き、資本的収支は税込数値です。

注2 億円未満の端数処理により、合計等が一致しない箇所があります。



令和 7 年度京都市交通事業経営評価

令和 7 年 9 月発行

京都市交通局 企画総務部企画総務課